ガーナ国別評価の概要

1. 評価のまとめ

(1) 政策の妥当性

日本の対ガーナ国別援助計画は、ガーナ政府の国家開発戦略と同様の「目標達成型」アプローチを採用するなどガーナの国家政策と高い整合性を有する。また、日本のODA政策に加え、アフリカ開発会議プロセスやミレニアム開発目標との整合性も高い。

(2) プロセスの適切性

2006年の改訂後、現地ODAタスクフォースの整備、セクターチームの活動、セクターごとのポジションペーパーの開発・活用により、現地実施体制が強化された。一方、セクターチームの活動はセクター内の個別事業の形成・実施に傾注し、セクターを超えた協力プログラム・戦略プログラムの実施管理は十分に行われていないことが確認された。

(3) 結果の有効性

各セクターにおいて事業間・スキーム間連携の努力がなされており、特に長期にわたる支援である「技術職業訓練」や「現職教員研修支援」においては、政策作成から実施促進に係る一連の支援が成果を挙げていると評価されている。但し、プログラムとしては、成果及び目標の達成見込みについて、目標設定が不十分なため客観的評価は困難。

(4) 主な教訓

目標達成に向けた効果的・効率的な援助実施に向け、協力プログラムの内容の整理と関係者間の共通理解の形成が必要。現地機能は強化された一方、将来の事業形成や政策作りのためにも協力・戦略プログラム目標や成果を明確にし、国別援助計画の進捗等を確認する取組を進める必要がある。

2. 提言

(1) 「目標達成型」国別援助計画における重点協力領域設置の目的と位置づけ再確認

(2) 援助環境の変化を踏まえ、より能動的に援助協調に関与

(3) ガーナの経験に根ざした協力プログラム実行指針の次期国別援助計画への反映

(4) 現地ODAタスクフォースの総合戦略・企画チームの活用により、「目標達成型」実施体制を整備

(5) 政策対話の一層の向上・改善

(6) 外務省・JICA 内での情報・知見の蓄積・共有・活用を促進する組織能力強化

(7) 国別援助計画の進捗管理指針の開発-「国別援助計画」現地中間レビューの導入-

(8) 協力プログラムの戦略性向上に向けて、関係者の理解共通化促進